

## ＜上出メディアウォッチ＞「積極的平和主義」は憲法違反の露骨な軍拡路線

上出 義樹

### 安倍首相が米国の講演で自衛隊の海外武力行使の「決意」を表明

新聞各紙やテレビで報じられている通り、安倍晋三首相は日本時間の9月25日、ニューヨークの講演で「積極的平和主義」をアピールした。まさに自衛隊が「地球の裏側まで」行き、憲法を無視して米国と共に海外で武力行使することも辞さない決意を露骨に表明したものである。米国の保守系シンクタンクでの講演とあって、安倍首相も余計に張り切ったのかもしれないが、もちろん憲法の「平和主義」とは到底、相容れない発言だ。

### 読売新聞は9月27日付社説で首相の問題発言を強力に後押し

ところが、読売新聞は27日付社説で「集団的自衛権 『積極的平和主義』を追求せよ」と、安倍首相のこの問題発言を強力に後押し。「アジアや世界の平和と安定へ、日本が従来よりも積極的に貢献する。安倍首相が掲げる『積極的平和主義』という新たな理念の具体化には、集団的自衛権に関する政府の憲法解釈の見直しが欠かせない」と持論を展開し、待ってましたとばかりに首相発言を持ち上げている。

### 国民が望まぬ「軍拡」礼賛報道はジャーナリズムの名に値しない

改憲案を発表している読売の社論と言えはそれまでだが、憲法違反の集団的自衛権行使は歴代の自民党政権も封印してきた。まして日本の新聞は、侵略戦争を礼賛した翼賛報道に対する反省を戦後の出発点にしてきたはずである。読売新聞だけではないが、国民が望まぬ軍拡路線を煽るような報道は、ジャーナリズムの名に値しない。

(かみで・よしき) 北海道新聞で東京支社政治経済部、シンガポール特派員、編集委員などを担当。現在フリーランス記者。上智大大学院博士後期課程(新聞学専攻)在学中。